

Retrospective evaluation of slim fully covered self-expandable metallic stent for unresectable malignant hilar biliary obstruction

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2023-06-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高橋, 翔 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002944

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2629 号

Retrospective evaluation of slim fully covered self-expandable metallic stent for unresectable malignant hilar biliary obstruction

切除不能悪性肝門部胆道閉塞に対する slim fully covered self-expandable metallic stent の後方視的評価

高橋 翔 (たかはし しょう)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本研究は切除不能悪性肝門部胆道閉塞 (MHBO) に対する slim fully covered self-expandable metallic stent (SFCSEMS) の安全性と有用性を初めて明らかにした臨床的に意義のある論文である。

近年、化学療法の発達により、各癌種での予後が延長し、ステント閉塞後の再治療や化学療法著効時の手術の可能性まで留置前に考える必要が生じている。従来 MHBO に対してはプラスチックステント (PS) か uncovered SEMS が使用されていたが、PS は開存期間が短く、uncovered SEMS は抜去不可という問題を有していた。Covered SEMS は抜去が可能であるため、再治療はしやすいものの、分枝閉塞による区域性胆管炎が懸念されている。そこで細径 (6mm) の Covered SEMS であれば上記の問題を解決できると考えられていたが、少数例の報告のみであったため、安全性は不明であった。本研究において SFCSEMS の Time to recurrent biliary obstruction (RBO) は 181 日であり良好な開存期間を有していた。35.2% に RBO を認めたが、全ての症例で抜去できた。また、偶発症は 11.1% に認め、区域性胆管炎は 1 例のみ認め、抜去で改善した。2nd ステントとして SFCSEMS を使用した場合も PS と比較して RBO 率、TRBO は良好であった。本論文は SFCSEMS の有用性の検討を 54 例という比較的多くの症例で検討した結果、有用性と安全性が証明されたため、今後の MHBO に対するドレナージ戦略において SFCSEMS が選択肢となりうると評価する。また、2nd ステントとしても有用と思われる。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。